

# 令和4年度 学校関係者評価報告書

学)井上学園 西門司幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- ・あいさつができるこどもを育てる。
- ・ひとやものを思いやるこどもに育てる。
- ・園児全体が100でなく、一人ひとりのこどもを100と見て、こどもが持つ能力を十分に引き出すことによって、自立できる子どもに育てる。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「平成31年3月18日(月)に開催された、保幼小連携研修会で講義のあった「幼小連携」において、他校と異年齢の交流を通じて、平成30年度より重点的に推進している「チームティーチング」や「アクティブラーニング」などの教育手法を用いて、平成31年度に繋げる教育を実践する。」を令和4年度に引続き継承研究していくカリキュラムを立案計画していたが、令和元年1月早々から拡大してきた新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、部分的に取り止めになる。

そこで新たに、立案されたのが、所以、新型コロナウイルス感染拡大防止のための(コロナ禍)の中でできる「新しい、保育の形」を、模索し、「3密にならずに段階的に見通した保育計画の推進を積極的に行う。」を令和4年度に実施する。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

### 1. 計画立案

令和4年度の現在も見通しの立たないコロナ禍のため、令和3年度に協議された「学校関係者評価会議」の際に計画された「新型コロナウイルス感染症」対策における保育を継続して行く事で決定した。その際、「コロナ禍における新しい保育のあり方の4年目」について、充分討議研究した結果、決定した内容は、

- ① 臨時休園中は、ヨコミネ式ワーク(よみ・かき・けいさん)を状況に応じて、家族で実践してもらおう。同時にかげっこ、柔軟、体操を保護者の監督の下、適宜行なう。
- ② 低年齢児には塗絵などで代替する。
- ③ 制限解除後は園バス送迎と昼食を開始。但し、毎日検温とマスク装着・園内では必ず消毒作業。
- ④ 行事は運動会、夏期保育A、秋の遠足、生活発表会、作品展、お別れ遠足は予定通り行なう。
- ⑤ 夏期保育C、プール遊び、お泊り保育、バザー展は中止する。
- ⑥ 卒園式、入園式は人数と時間を制限して、行なう。
- ⑦ 基本は手洗い、うがい、消毒とマスクの常時装着。

以上の7項目の中でも、作品展は少し規模を小さめにする傍ら、創作活動と体育活動に重点を置き、絵画教室、体操教室及びECC英会話教室は例年と同じだけの回数を全うする。

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

3年目に入った新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の措置下の「新しい保育の形」の中で予定されていた、④は全て実施され、また令和5年の3学期のお別れ遠足を条件付きで、3年振りに実施できたり、少しずつ社会状況と感染状態が比例して、4年前の保育に戻りつつある事を嬉しく思います。そして、令和5年の保育も以前の様に「公開保育」が観られたらと思います。

#### 5. 今後取り組む課題

『本年度実施した、3種3校による取り組みは、各校の、特に、小中学校との日程調整が困難である事と、上位校にはもっと、『目的』や『意味』や『効果』について深く吟味していく必要性を内包する。』と、昨年課題を挙げたが、本年度こそ上記の内容を基題に軌道修正したいと考察する。』と、昨年、課題を挙げたが、本年度は、西門司小学校の5年3組と、学校紹介のタイトルを基に、DVD非対面交流を実施した。

また、幼小連携校の西門司小学校に加えて、以前より親交のあった緑丘中学校・柳西中学校・戸ノ上中学校とは、令和5年度の「保育・職場体験及び中学校家庭科の単元「保育」の実践授業の再開」の会議を学校長とそれぞれ行ない、校内の状況等で、実施予定校と躊躇校とモラトリアム校の3種に分かれた結果となり、各校の連携待ちというのが現状である。

#### 6. 学校に取り組む課題

まずは、平成30年度のような状態に戻し、今まで通りの社会で教育を突詰めていきたいと考察する。また、内閣府が発出した、令和5年5月8日より新型コロナ感症を医療区分第5種に移行する事を踏まえ、前述計画の通り平成30年当時の教育・保育に戻ることとする。

#### 7. 財務

公認会計により適正であると認められている。